

近江同盟新聞

発行所

近江同盟新聞社

彦根市立花町2-63

TEL 23-0066

FAX 23-0067

購読料 月840円

(消費税5%込み)

日・水曜・祭日休刊

禁断転載

あすの天気

北西の風
晴のち曇

彦根地方气象台

2つの挑戦・6つの改革

彦根再生へ

「経済活性化」と「教育」

彦根の活性化や市民主体のまちづくり実現に向け市内経済人らで構成する任意団体「彦根ブランドデザイン研究会」(代表 小出英樹・キンスト社長)は二十三日、市文化プラザでフォーラムを開催し、彦根が将来めざすべき姿の提言「ブランドデザイン」を発表した。提言は「経済の活性化」と「彦根独自の教育」を軸に「二つの挑戦・六つの改革」を掲げ、提言を「単なる行政への提言ではなく私たち自身が行動を起こしていく羅針盤となるもの」と位置付け「今こそ市民と行政、企業が連携し出来ることから彦根再生への第一歩を踏み出さねばならない」としている。

彦根の将来像「提言」発表

彦根ブランドデザイン研究会



フォーラムで講演する北川正恭・元三重県知事

発表されたブランドデザイン第一の挑戦は「自立発展する経済都市への挑戦・経済活性化策」。過去に栄えながら近年停滞状況にある彦根を「市民・行政・企業」が一体となり、官のみに頼らない経済の活性化と発展に挑戦し続ける都市へと変貌させる。ため①企業誘致促進②来訪者誘致促進彦根ビクターズビューローの設立③起業家の育成の三改革を掲げた。

個性が花開き徳の高い人物を生み出す教育へ改変するため①EQ心の知能指数

Ⅱの推進(彦根EQ教育特区の実現)②学校運営の活性化と教育者教育の実施(教

師評価制度など)③個性ある教育制度の導入(自由学区制度など)の三改革を掲げた。

経済活性化のうち観光面では、現在年間二百七十五万人まで落ち込んでいる観光客数を、ビクターズビューローを通じて誘客策により五年間で倍増の五百万人をめざす。起業家(アントレプレナー)育成では、市民や学生など起業をめざす

合併は市民の声を尊重

将来的に「東琵琶連合」

また彦根市の合併については、アンケートで約六割の市民が「どことも合併しない」を選び単独の市政運営を望んだことを受け、提言では「市民の声を尊重し、現状の枠組みとは異なる新たな行政のカチを模索する必要がある」と述べ、今後の方向性として「将来的に「東琵琶連合」(湖北や近江八幡まで含めた連合)全体での合併実施をめざす」とまとめている。

彦根ブランドデザイン研究会の提言発表は文化プラザ・エコーホールで行われ、祝日の午後だったが約二百五十人が集まり一階が満席近く埋まった。会場には経済・商店関係者をはじめ各種団体、国会議員、県・市議の顔ぶれも多く見られた。提言発表にあたり小出代表は、研究会のマークをコロンブスの卵を逆の形にしたことを紹介し「市民は彦根が大好きであり伝統文化を認めているが、その可能

性を十分発揮できていない。泣き言や弱音でなくポジティブな前向きな発想で提言を実現すれば彦根が自立し、すばらしいまちになるのではない。地方の改革は難しいがやってみよう」とあいさつした。

続いて副代表の木村泰造氏と研究会アドバイザーとして協力している彦根市出身でシンクタンク「日本政策フロンティア」代表の小田全宏氏がブランドデザインを発表。パネルディスカッションの予定で選挙マニフェストの提唱や地方分権の旗手として注目されている北川正恭氏(早稲田大学教授)が「ローカルマニフェストの現状と展望」のテーマで講演を行った。